

山居倉庫外壁補修

土蔵を覆う「さや」を木材保護塗料で守る

米どころとして知られる山形県庄内地方の中心地、酒田には、明治時代に建造された連棟式の米穀倉庫が残る。名前は山居倉庫。全国農業協同組合連合会山形県本部で所有する現役の倉庫で、現存する本造の連棟倉庫としては日本最古と言われる。漆喰で塗り固めた土蔵の周囲を「さや」と呼ばれる黒い杉板で覆う造りは、白と黒のコントラストが美しい。水分に弱い漆喰を雨から守ったり断熱性を一段と高めたりする狙いを持つ木製の「さや」に関しては、2006年度から07年度にかけて補修工事を実施した。補修工事の内容やメンテナンスに対する考え方を、同連合会山形県本部で倉庫の管理を担当する信夫効次氏に聞いた。



全国農業協同組合連合会 山形県本部
米穀部 庄内米穀生産課
庄内連合農業倉庫 グループリーダー
信夫 効次 氏

——山居倉庫のいわれを、まず教えてくださいませんか。

信夫 ● 庄内藩士の酒井家では明治26年、農業の振興を図ったり就業の場を確保したりする目的で酒田米穀取引所を設立しました。そして、東京や大阪など都市部に庄内米を流通させる拠点として、地域内の11カ所に米穀倉庫を建造しました。

山居倉庫は米穀取引所設立と同じ年に、そうしてつくられた米穀倉庫の一つです。当時はまだ、舟運を利用していたので、庄内各地に建造された倉庫の中で唯一、山居倉庫は河川の近くに立地しています。中州を約3m土盛りした上で、明治26年に7棟を、翌27年に4棟を完成させました。



山居倉庫の西面。右手のけやき並木で西日や西風を防ぐ仕組み。南側に位置する5棟は2006年度に補修工事とキシラデコールの塗り替えを実施した

その後、増築を重ねて、一時期は計15棟が建ち並んでいました。いまでも残るのは、このうち12棟です。うち2棟は地元の酒田市が2003年度に買い取って、観光用の施設として再生利用しています。

——残る10棟はいまでも現役の倉庫として利用されているのですか。

信夫 ● 1棟は庄内米歴史資料館として利用しているので、現役の倉庫は9棟です。低温保管できる米穀倉庫として利用しています。

米というのは、室温15度を超えると呼吸を始めます。すると、どうしても味が落ちます。倉庫の中は、室温15度以下になるように冷房を使って温度管理しています。

——倉庫として、造りにはどのような特徴があるのですか。

信夫 ● 本体は厚さ160mmの土蔵です。漆喰で塗り固めた土蔵を、杉板でぐるむような構造を採用しています。この杉板を「さや」と呼んでいます。

「さや」は、水分に弱い漆喰塗りの土蔵部分に雨水が直接当たるのを防ぎます。また、壁面の断熱性を高めて倉庫内の室温を一定に保つ役割も果たします。

現在は漆喰が露出している東側の妻面の上部には、所々に突き出すかぎ状の金具に「さや」を吊り下げることができますが、温度管理に冷房を取り入れたこともあって、いまはもう使っていません。反対面の西面では、土蔵との間にひとりとやっ通れるほどのすき間を開けて、「さや」で構成する壁を、面全体を覆うように立てています。

壁面と同じように、屋根も二重構造を

採用しています。土蔵の上に屋根を重ねて架ける造りです。土蔵と屋根の間に空気を通すことで、倉庫内の室温を一定に保つ仕組みです。

——温度管理の観点から、そうした造りに一部手を加えられているとか。

信夫 ● 冷房を使うようになったこともあって、倉庫の内部はすべて、断熱材で覆うようにしています。

床はもとは防湿剤として塩を厚さ3cm程度盛りながら作った、たたきでした。いまはさらにその上にコンクリート打下了上で、断熱材を敷き詰めています。

壁や天井は場所によって、張り付けと吹き付けを使い分けながら断熱材を施工しています。結露を防ぐ観点から気密性を確保する必要がある箇所では、ムラなく施工できる吹き付けの断熱材を利用しています。

——「さや」のメンテナンスに関しては、どのように対応されていますか。

信夫 ● 西面には冬、吹雪が直接当たるので、ほかに比べて傷みが目立ちます。西日や西風を防ぐ目的で倉庫の西側にけやき並木を整備しているものの冬

山居倉庫の東面、連棟式倉庫の出入り口部分をつなく下屋の外壁に関しては07年度、自前でキシラデコールの塗り替えを実施した



には落葉してしまうので、吹雪のときには十分に機能しません。「さや」の板材を固定する角材が一部、抜け落ちたり反り返ったりするほど過酷です。

木材のメンテナンスは、部材がボロボロになる前に手を入れないと

意味がありません。一方で、古さも観光の売り物にしている面もあるだけに、部材をすべて新しいものに取り替えたり、一気に塗り替えたりするわけにはいきません。そこで、老朽化の著しい部材だけ取り替えて、木材保護塗料の塗り替えも順次部分的に行っています。

——南側5棟は最近、メンテナンスを終えたばかりとお聞きしました。

信夫 ● 南側に並ぶ5棟に関しては2006年度、傷みの目立つ西面の「さや」に手を入れました。検査の結果、老朽化の著しい部材を一部取り替えただで、木材保護塗料を塗り替えました。足場を組む必要があったので、施工は業者に依頼しました。

施工期間は2～3週間。部材を取り替えたのは、全体の1割程度でしょうか。木材保護塗料にはキシラデコールの黒色（ジェットブラック）を用いています。

業者から木材保護塗料として推薦されたキシラデコールのことは、このとき初めてに耳にしました。何より感心した

のは、浸透性が高いことです。部材によく染み込むということは、保護塗料としての効能が部材の中ほどにまで及ぶということです。実際、色の持ちもよく、カビの繁殖もありませんので、耐久性は向上していると評価しています。

次の07年度には残る東面のメンテナンスを実施しました。連なる倉庫の出入り口をつなく下屋部分では外壁に「さや」と同じ杉板を用いています。そこを、06年度と同じキシラデコールで塗り替えました。ここは足場を設置する必要はないので、作業担当の職員が塗り替えを担当しました。

——今後のメンテナンスに関しては、どのようにお考えですか。

信夫 ● 倉庫全体として考えれば、毎年どこかに手を入れていく必要があるとみています。保護塗料の塗り替え周期は、5～6年でしょう。浸透性が高く、耐生物性にも優れたキシラデコールを木材保護塗料として、今後とも利用していきたいと思います。

浸透性の高いキシラデコールを評価



【お問い合わせ先】

木とともに生きる。【キシラデコール】
XYLADECOR

キシラデコールに関する情報満載!
www.xyladecor.jp



品質材料部：建設材料メーカーの製品
採用回数最多のメーカー
2007年9月13日付

販売総代理
日本エンバイロケミカルズ株式会社
TEL: 03-5444-9872 FAX: 03-5444-9860

大阪 〒541-0051 大阪市中央区備後町三丁目6番14号 アーパックス備後町ビル TEL: 06-6268-3428 FAX: 06-6268-3420
東京 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーパンスN館9階 TEL: 03-5444-9872 FAX: 03-5444-9860
www.jechem.co.jp